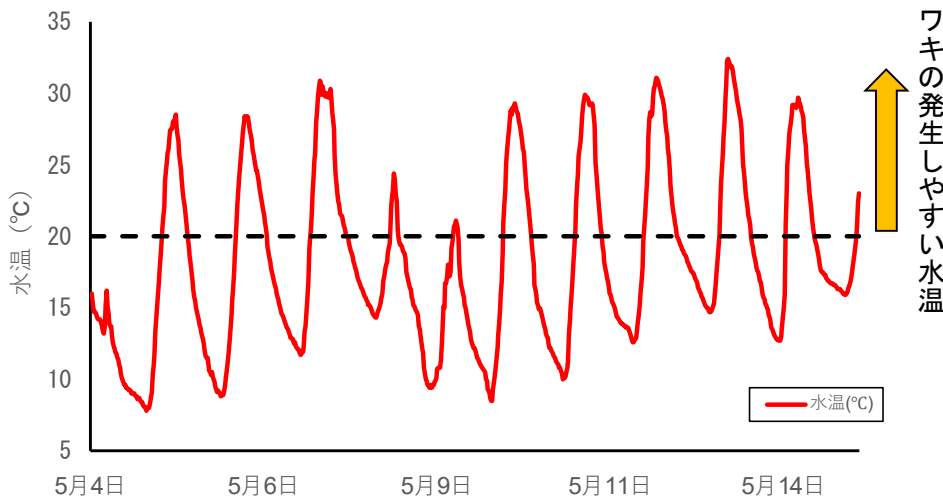


# 高水温によるワキに注意！ 落水してガス抜きを!!

- 水田の水温は日中、ワキ（有機物の分解によるガス）が発生しやすい20～30℃に達する日が多くなっています。
- 水田に足を踏み入れ多量の気泡が発生する場合は一時落水でガス抜きを行い、根の健全化を図りましょう。

## ○水位センサー測定による水田の水温（令和8年 長岡市関原）



5月上～中旬の段階で日中の水温が20℃を超える日が多く、ワキが発生しやすくなっています。

## ○ワキの発生程度と水稻生育への影響

（「水稻栽培指針」令和3年2月新潟県農林水産部 p82 表 7-1 を抜粋）

ワキの程度	ガス発生量 (l/a)	ワキの発生程度	水稻への影響
少	200～300	水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる	なし
中	300～400	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下
多	400～500	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良
甚	500以上	晴天時自然に気泡を発生し音が聞こえる 水田を歩くと著しく気泡を発生する	根の伸長阻害 地上部黄化

ワキの発生が中程度以上の場合は水稻の初期生育に影響し、茎数不足につながります。

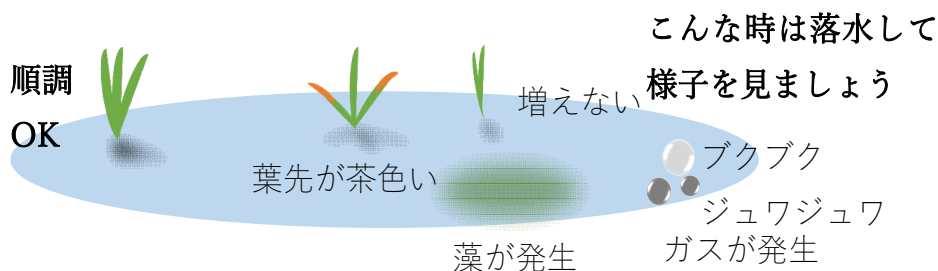
## ワキ対策のための水管理

○水田に足を踏み入れた際に多量の気泡が発生したり、葉の黄化等ワキの影響による生育抑制がみられる場合は、一時落水によるガス抜きを行いましょう。

一時落水は1～数日間とし、田面が乾燥しない程度としましょう。

○除草剤の散布回数が2回以上の体系処理の場合は（例：初期＋初中期）、2回目の除草剤散布前に一時落水を行いましょう。

※除草剤の散布後7日間は止め水とし、落水しない。



### ○除草剤散布時の注意点

- ・新潟地方気象台5月14日発表の北陸地方1か月予報によると、向こう1か月間の平均気温は平年より高い確率が80%で、期間の前半はかなり高くなる予想です。除草剤の散布は薬害の発生防止のため異常高温時を避けて実施しましょう。
- ・少量拡散型粒剤を用いる場合、ほ場内へ均一に拡散させるため、薬剤の使用方法を確認し、強風時の散布は避けましょう。  
また、藻や稲わら等の浮遊物が吹き寄せられている場所等は拡散不良の原因となるため散布を避けましょう。

「春の農作業安全運動」を実施中です。（令和8年4月1日～5月31日）

見直そう！ 作業手順と安全意識

作業前の周囲の安全確認と、ゆとりある作業を実施しましょう。